

# 革新的技術戦略について

平成20年4月15日

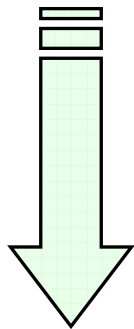
甘利議員提出資料

# 総合科学技術会議の司令塔機能の強化

iPS細胞研究のような目覚ましい成果を挙げた研究開発に関して、総合科学技術会議のイニシアティブにより、資金・人材等の加速的な資源配分を進めることが必要。

## 【課題：総合科学技術会議の司令塔機能の強化】

✓省庁縦割りを超えた加速財源の充実



### 【iPS研究等ライフサイエンス分野における米国の支援体制】

#### NIH(米国国立衛生研究所)の現況

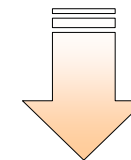
- ✓保険社会福祉省の傘下。27の研究所有り。
- ✓予算:約3兆円(約80%は外部へ。うち、1.6兆円は研究グラント。)

- 総合科学技術会議が使える予算の確保・拡充**  
科学技術関係の予算の一定割合を留保し、総合科学技術会議が活用できるようにする。  
(現在、総合科学技術会議の有する加速財源は、科学技術振興調整費(約350億円)のうち約10億円)

## 【課題：選抜・執行の仕組の充実】

- ✓緊急的かつ重要な課題に対する目利き機能を拡充するため、関係府省・学界・産業界等**多様な視点からのインプット**を集約する**仕組み**が重要。
- ✓加えて、**迅速・適切に選定する仕組み**の構築が必要。

### 関係府省・学界・産業界



- 有望な研究開発情報の集約

### 総合科学技術会議

- 選定する仕組み

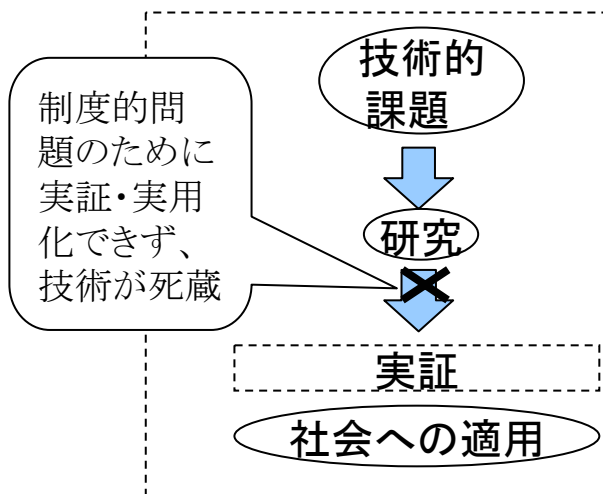
加速財源の手当等

- ✓**適正な執行が可能となる仕組み**の構築が不可欠

# 出口を見据えた研究マネジメント

イノベーションを創出するためには、研究開発の成果を事業に結びつけるとともに、制度的課題の克服に向けた取り組みも必要。

## 【スーパー特区構想の取組】



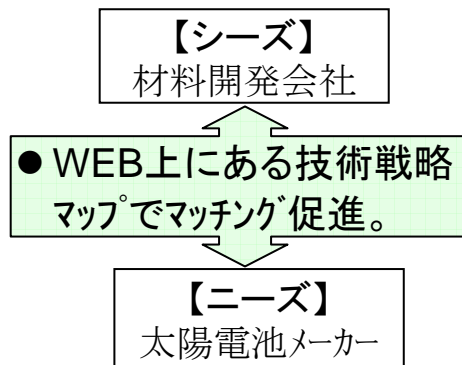
- 研究開発を進めるに当たり、技術的課題と共に、制度的課題の解決も目指す。
- 技術毎に関連府省協議会を設置し、継続的に制度的課題を検討。

## 【大学などにおける知財管理の支援体制の構築】

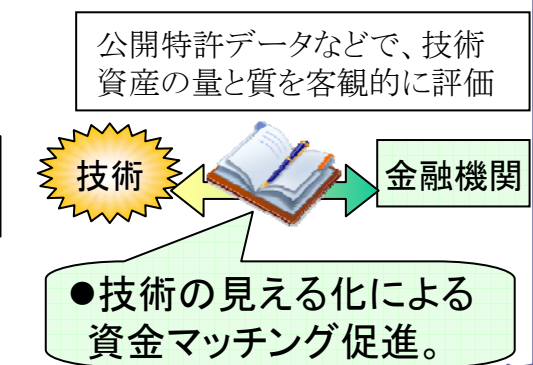
- 「強い特許」群の構築のため、大学・公的研究機関に、国際標準化人材の派遣や支援体制を構築。

## 【技術のマッチング・適正な評価】

### ① ニーズとシーズ



### ② 技術と資金



## 【国費で購入した研究設備の事業化への活用】

- 研究のための補助事業終了後、事業活動にも使用可能に。
- 委託事業終了後、公設試等に設備を貸与するなど、広く利用開放を検討。